

第 2 学年 道徳 学習 指導 案

日 時 平成18年10月12日(木) 5校時
学 級 2年A組(男11名 女16名 計27名)
指導者 教諭 伊藤 千寿

1 主題名 「信頼感」 内容項目 3 - (3) (人間の強さと気高さ、生きる喜び)

2 資料名 「ネパールのビール」 (出典「あかつき 2 自分を考える」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目 3 - (3) は、「人間には弱さや醜さを克服する気高さがあることを信じて、人間として生きることに喜びを見いだすように努める」ことを目標としている。

人間は信頼に値すると思う相手に対してであっても、状況によっては疑いの気持ちをもってしてしまうことがある。それは気持ちの弱さとも言えるが、よほど相手を知り尽くしているのではない限りは仕方がないこともある。しかし、それを超える誠実さに触れることによって、疑ってしまったことを悔いたり、相手が信頼に値する人間であることを再認識したりすることもある。そのような経験を繰り返す中で、自分も弱さをもっていることを認めたくえそれを乗り越えることのできる可能性を信じられるようになり、そのことがやがて喜びをもって生きていくことにつながると考える。中学生のこの時期は哲学的な思考もある程度できるようになってきており、この機会に自分が人間としてもつ良さについてあらためて気付くことがこれからの人生においてプラスに働くと考え、本主題を設定した。

(2) ねらいに関わる生徒の実態について

学級全体としては、誰とでも自然と一緒に活動を行える雰囲気がある。班編成でもメンバーについて特にこだわりを示すことはなく、誰と同じ班になってもそれを受け入れている。自分の考えを主張したりさまざまな意見を交換し合ったりすることについては遠慮しあって消極的になる傾向が強いが、一人一人はそれぞれ個性的で良い感性をもっており、時には現実的に物事を見ることもできる。したがって人間には弱さがあるという事実についても抵抗なく受け止めると思われるので、さらに、それを乗り越えることのできる可能性にも気付かせていきたい。

(3) 資料について

本資料はネパールの山岳地帯にある村を舞台にした実話である。筆者は、チェトリという少年に大金を渡してビールを買ってくるようにたのむが、出かけたきり何日も帰ってこない。村人や学校の先生に相談すると、みんな口をそろえて逃げたのだと言う。筆者もチェトリを疑ってしまい、チェトリに大金を預けてしまったことを後悔する。しかし出かけてから3日目にチェトリは帰って来る。そして彼が3日間かけて山を三つも越えてビールを買いに行っていたことが分かる。彼は転んで割ってしまった瓶の破片を全部出して見せ、筆者に釣銭を渡す。筆者はチェトリの肩を抱きながら大泣きする。

筆者には疑いの気持ちをもってしまっても仕方がない状況があったが、チェトリの誠実さはそれをはるかに超え、感動を与えるものであった。筆者は泣きながら自分を責め、少しでもチェトリを疑ってしまったことを激しく後悔する。しかし、その後悔はチェトリを疑ってしまった自分の弱さを克服することにつながっていくことを理解させ、人間の持つ強さと前向きに生きることの大切さを分かせたい。

4 指導にあたって

本時は資料の舞台となる場所の状況や筆者の気持ちをとらえやすくするために、資料や補助資料の提示の仕方を工夫したい。

導入部分では、山岳地帯や村の写真から別の村までビールを買いに行くことがどれだけ困難であったかをとらえさせ、ビールを買いに行くことを申し出たチェトリの人柄をつかむ手がかかりとしたい。また、子供たちの写真からその村が決して裕福ではなかったことをとらえさせ、展開部分でチェトリが大金を持って逃げたのではないかと疑う筆者の気持ちへの共感につなげたい。

展開部分では、まずチェトリが帰らず筆者がチェトリを疑ってしまう場面までの資料を示し、チェトリが逃げたと考えても仕方がない状況を理解させ、チェトリに疑いの気持ちをもってしまった筆者の気持ちに十分に共感させたい。次に筆者が予想もしていなかった結末となる終盤部分を示し、チェトリの誠実さに胸を打たれた筆者がチェトリを疑ってしまったことを悔やみ、深く反省している気持ちに焦点を当てたい。

5 本時の指導

(1) ねらい

人間には自分の持つ弱さを乗り越えていく力があることに気づき、喜びをもって生きていこうとする態度を育てる。

(2) 展開

段階	学習内容と主な発問	予想される生徒の意識	指導上の留意点
導入 (8分)	1 ネパールについて知る。 ・地形、村の位置 ・現地の生活について	・山が多い。 ・不便な生活をしている。 ・貧しそう。	・写真や地図を用いて資料の舞台となる村の生活の様子がイメージできるようにさせる。 ・チェトリを疑う筆者に十分に共感させるため、筆者がチェトリを疑ってしまう場面までを提示する。
展 開 (35分)	2 資料を読む。 3 あらすじの確認 チェトリ君が二度目にビールを買ってきてあげると言った時、筆者はどう思ったか。 ・筆者はチェトリ君がどうなったと考えたか。 筆者が歯ざしりするほど後悔したのはなぜか。 4 資料を読む。 筆者はなぜこれほどまでに泣いたのか。 5 自分たちの生き方を考える。 人が自分の中にある弱さを乗り越えるために必要なことは何か。	・ <u>うれしい、ありがたい。</u> ・ <u>大変ではないか。</u> ・ <u>昨日ちゃんと買って来たから大丈夫だろう。</u> ・ <u>昨日ちゃんと買って来たから信用できるだろう。</u> 「事故」 ・ <u>歩くのが大変な山道だから。</u> 「逃げた」 ・ <u>村の人も学校の先生もそう言っているから。</u> ・ <u>貧しい村だから。</u> ・ <u>チェトリに悪いことをさせるきっかけを作ってしまったから。</u> ・ <u>事故だったら最悪だから。</u> ・ <u>チェトリの人生を狂わせた責任を感じたから。</u> ・チェトリが無事だったことにほっとした。 ・ <u>疑ってしまったことを後悔した。</u> ・ <u>チェトリの誠実さに感動した。</u> ・ <u>疑った自分が情けなかった。</u> ・ <u>気付いたら反省すること。</u> ・ <u>今後に生かそうとすること。</u> ・ <u>相手の立場に立って考えること。</u>	・チェトリが二度目にビールを買いに行くところまでを確認する。 ・筆者がチェトリの申し出に喜んで応じたことを確認する。 ・筆者がチェトリに対して好印象をもったことをとらえさせる。 ・それぞれの可能性について理由を考えさせる。 ・村の生活状況や学校の先生の言葉から考えても逃げた可能性が高いと思われる状況を理解させる。 ・この時点で筆者の気持ちが「事故」よりも「逃げた」に傾いていることを確認する。 ・状況によっては人を疑うことも仕方ないことや、それこそが人間のもつ弱さであることに気づかせる。 ・予想を超えた相手の誠実さに触れて自らを悔んでいる筆者の気持ちをじっくり考えさせる。 ・筆者がチェトリの誠実な行動に涙していることをとらえさせ、ほっとした気持ちよりも疑ったことへの後悔の方が強いことを確認する。 ・人はどのような弱さを心の中にもっているかを押さえたうえで考えさせる。
終末 (7分)	6 教師の講話		・人の生き方に関する名言をいくつか紹介する。

6 評価

人間には自分のもつ弱さを乗り越えていく力があることに気付くことができたか。

7 資料分析図(ネパールのビール)





